

3号機T/B（サービスエリア）におけるモルタル流入事象 を踏まえた対応状況について

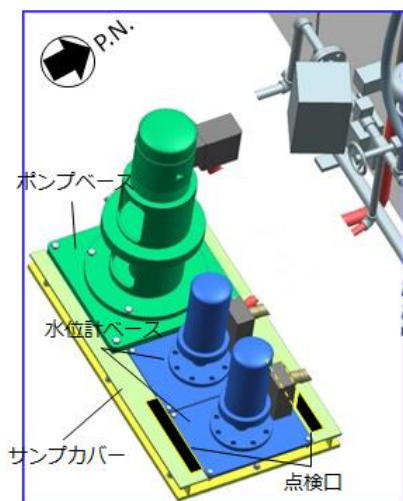
2020年3月23日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

1. 背景

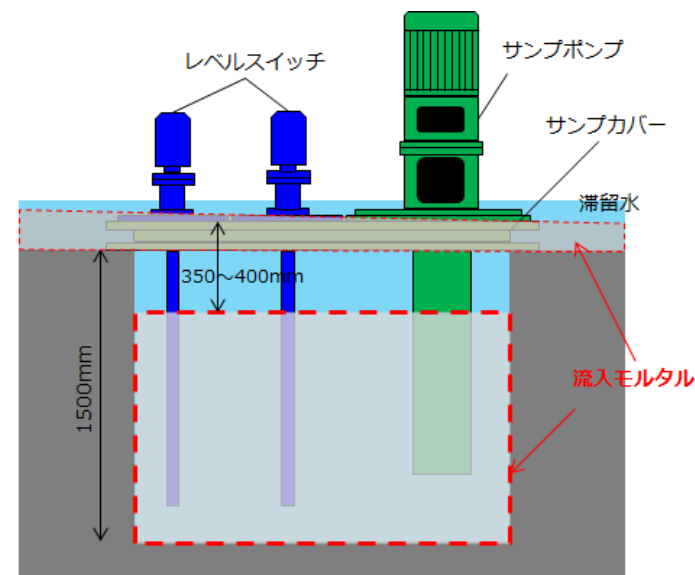
- 3号機タービン建屋内の海水配管トレンチを閉塞するため、モルタルの充填作業を実施していたところ、ケーブルダクト貫通部を通じて、ドライアップ側の工事エリア（サービスエリア）にモルタルが流出していることを確認（2019年12月3日）
- ドライアップ側の工事は、遠隔ロボット等を用いてサンプピット直上の干渉物撤去を終えたところであったが、ドライアップ用の排水ポンプを投入予定であった当該ピットにモルタルが充填・固着したため、排水ポンプが投入出来ない状態となった。



事象発生前



事象発生後（イメージ）



3号T/B サービスエリア サンプピット（モルタル流入後のイメージ）

2. 対応状況（サンプルピット）

- サンプルピットは、LS（2体）の強制引抜き等を実施し、ピットの開口部を確保（図1）。
- ピット内はモルタルが充填されていたが、現在、ピット内のモルタルはつり作業を進めており、排水ポンプを設置するための必要最低容積※を確保完了。
- はつり作業は今後も継続し、可能な範囲で事象発生前の状態までピットの復旧を行う。

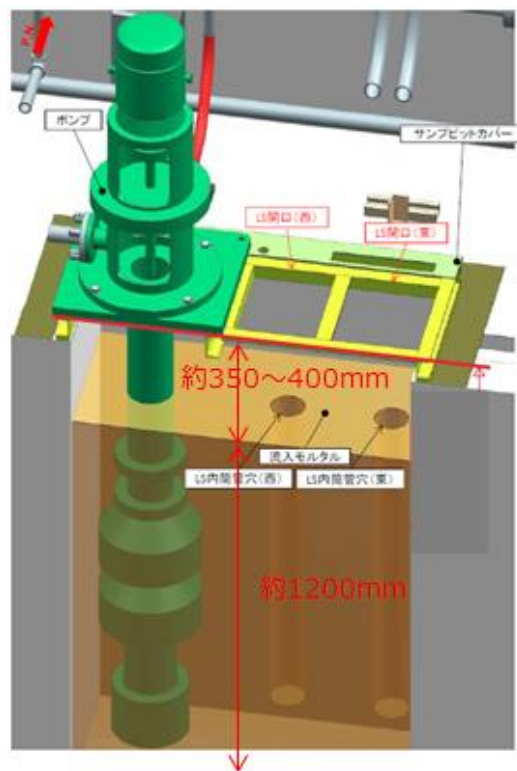


図1 サンプルピットの状況（1/20時点）

日付	2/20(木)	3/13(金)
深さ	350mm(中央初期値)	中央深部1000 mm ポンプ側浅部 950mm
ピット状況		

ガラ回収治具

※移送ラインに逆止弁の追加を実施する場合

3. 対応状況（フロア）

- ピット周辺の床面にもモルタルが流入しており、当該フロアの滞留水は、建屋側溝を伝って サンプピットに導かれず、滞留している状況を確認（図1、2）。
- 今後、遠隔ロボットで床面のモルタルをはつり、ピットに導く水路を構築する工事を準備中。

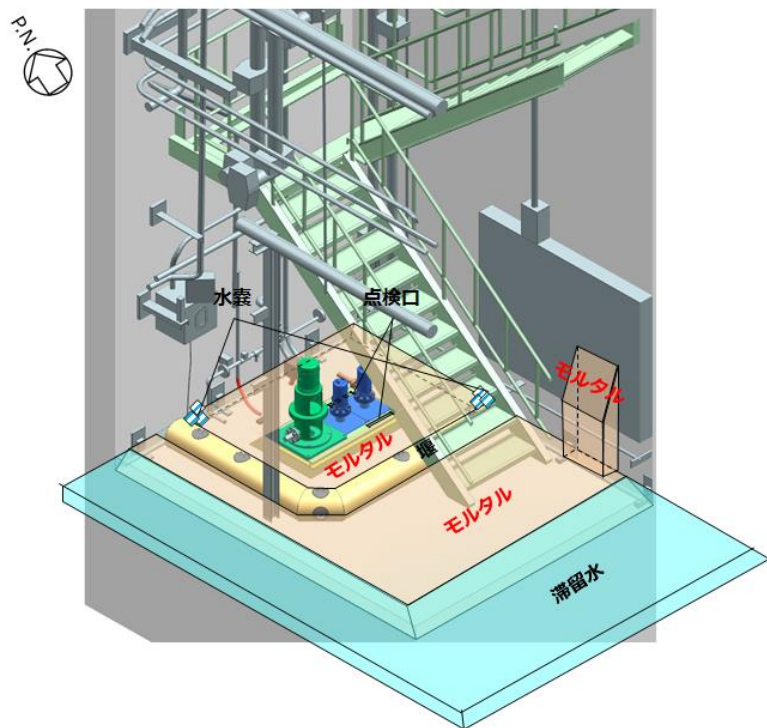


図1 ピット周辺の状況（イメージ）

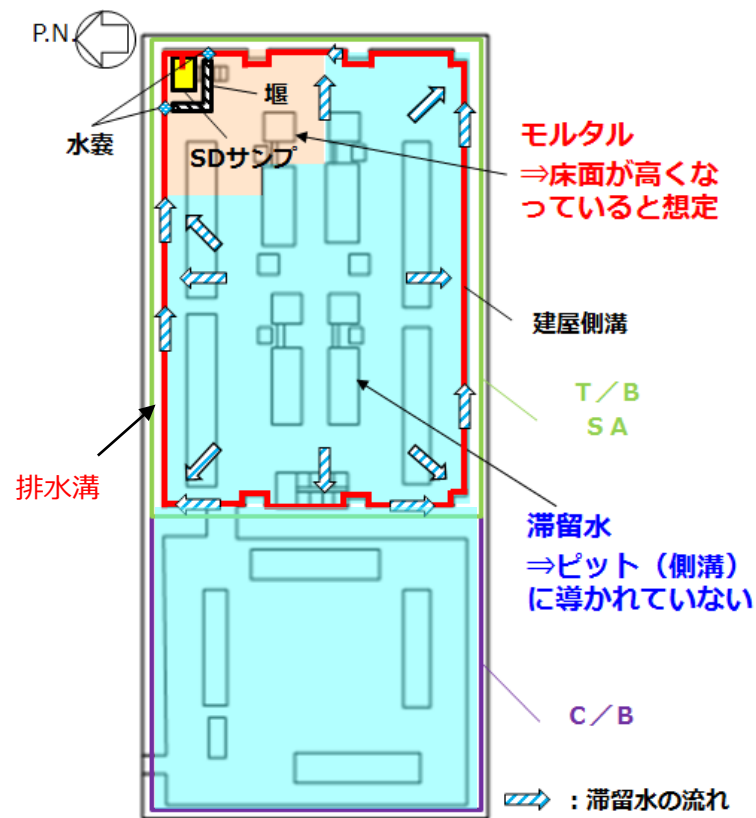
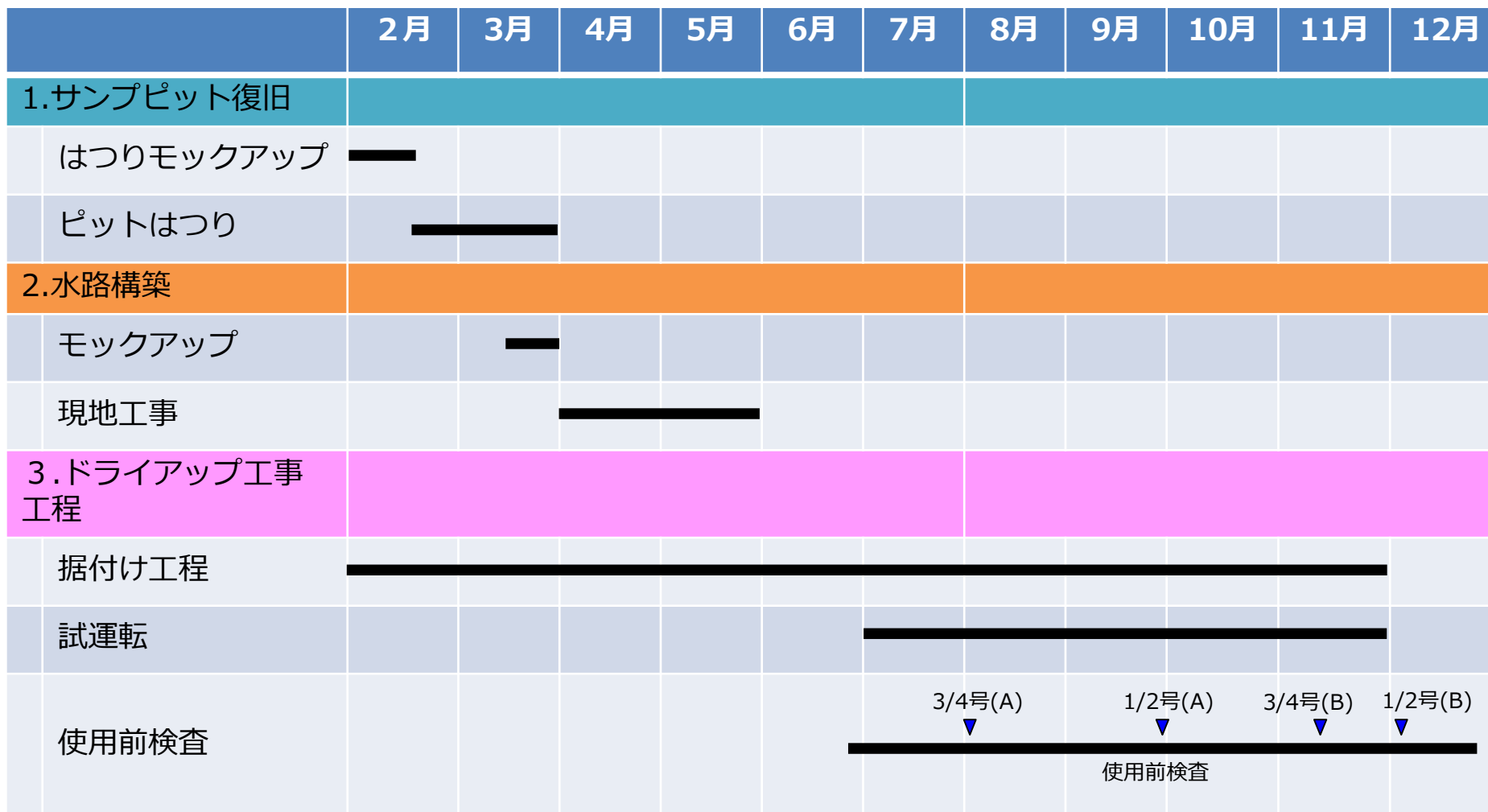


図2 ピット周辺の水抜き後の残水状況

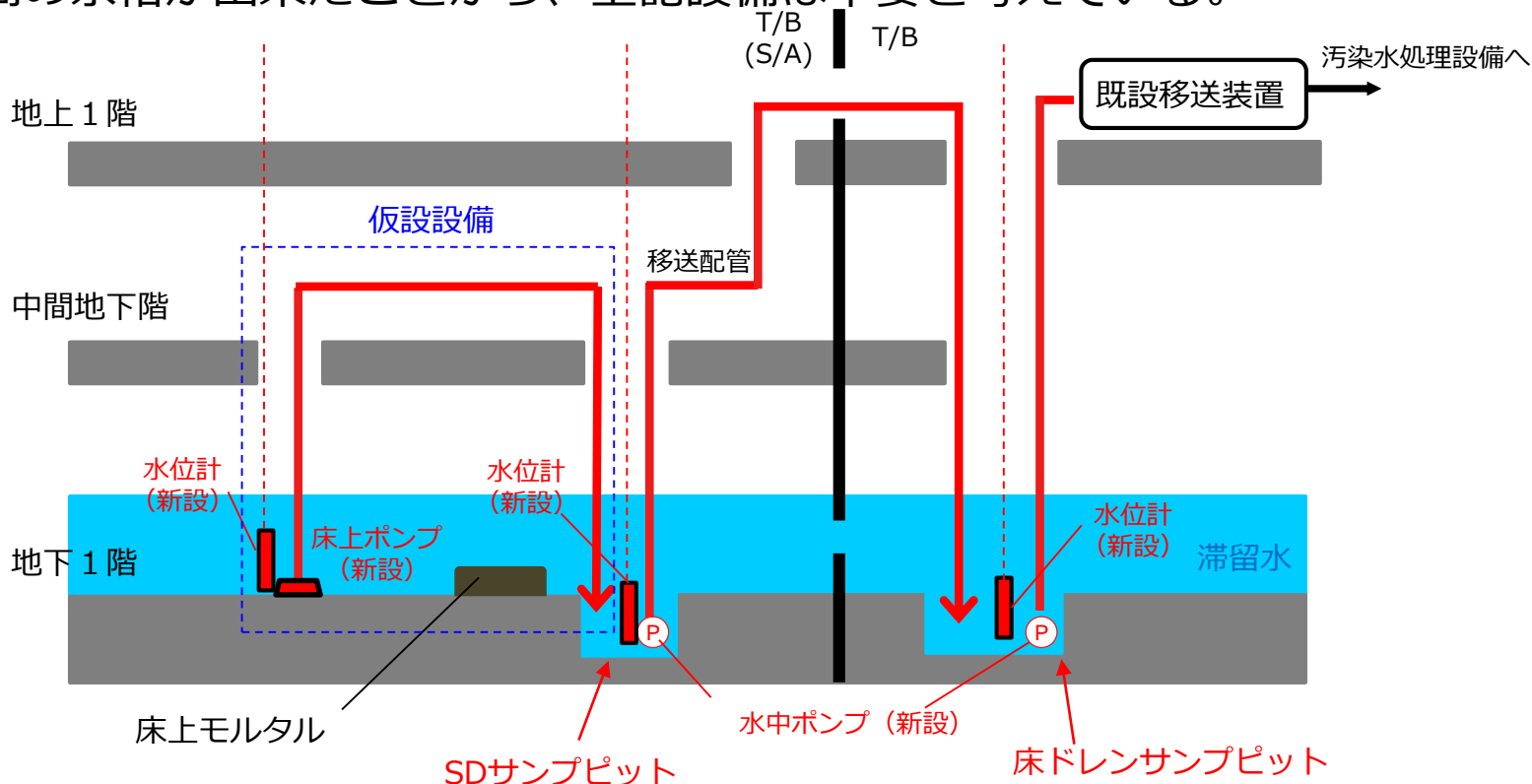
4. 工程

- モルタル流入事象を踏まえたサンプルピットの復旧作業およびサンプルに導く水路構築作業は、当初の工事工程内に完了する見込みであり、ドライアップ工事工程への影響はない。



(参考) 床上ポンプを用いた排水

- サンプピットへ導く水路構築作業が想定より長期化した場合を想定し、仮設設備（青点線枠内）によるサンプへの移送方法について検討しており、仮設設備との組み合わせによる当該フロアの滞留水排水が可能と評価。
- なお、モルタルが流入した当該ピットは、ピット内のはつり作業によって既に水中ポンプを設置できる状態まで復旧しており、水路構築作業の完了期限は、2020年内まで約半年間の余裕が出来たことから、上記設備は不要と考えている。



モルタル流入事象を踏まえた3号機T/B建屋滞留水の排水概念図